

2022年1月18日

2021年12月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は学参テキストをはじめとした出版関連が堅調に推移した。また封筒関連も動いたため前年同様であったが、前々年比で見ると92.4%であり、完全な回復までには至らなかった。

巻取は生損保関連、金融関連を中心に動きがあり、前年を上回った。ただ前々年比では86.8%であり、回復とはいかない状況だった。

（前年比 平判 99.9% 巻取 104.2%）

再生紙平判は案件数の減少が見られ前年を下回ったが、巻取は大口の受注があり前年を上回った。

前々年比では58.6%と低調に終わった。

（前年比 再生上質平判 61.3% 再生上質巻取 121.5% 再生上質計 77.1%）

（前年比 印刷用紙 A 全体 100.6%）

<A2 コート>

平判は金融、自動車、製薬関係の企業カタログ、パンフレットで動きがあり、マット紙は前年を上回ったが、平判全体では前年を下回った。

巻取は食品デリバリー、通販向けのチラシで動きがありグロス紙は前年を大幅に上回ったが、巻取全体では前年を下回った。

緊急事態宣言は解除されたが各業界においてコロナ禍での自粛が継続されており、新規の案件も少なく印刷物全般の需要は減少した。

（前年比 平判 95.0% 巻取 92.9% 全体 94.5%）

（前々年比 A2 コート計 80.5%）

<A3 コート>

年末年始向けに食品スーパー、量販店、ドラッグストアの定期的なチラシ案件と一部旅行案件で動きがあり、巻取は前年を大幅に上回った。

（前年比 平判 50.9% 巻取 130.5% 全体 97.2%）

（前々年比 A3 コート計 77.1%）

<ノーカーボン紙>

自治体毎の支援金の動きも落ち着き一部保険関連の動きは見られたが、一般の帳票関連の動きも弱く新規案件の動きも無く生損保、金融関連のペーパーレス化もあり、平判巻取共に前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 86.4% 巻取 82.0%）

<上質フォーム>

通知書関連のウェブへの切り替え影響も見られたが、官庁関連、納付書はじめ一般の動きが堅調で前年並みに推移した。

(前年比 103.0%)

<包装用紙>

特殊両更は金融、保険関連向け、官公庁向け封筒の動きが順調に推移し前年同様の動きとなった。

(前年比 103.6%)

軽包装は製本会社向け雑包装用途と生花店向け包装用途が回復傾向で前年を上回った。

(前年比 113.5%)

片艶晒は年末年始向けの包装用途の動きが一服し手提げ袋も回復しておらず前年を下回った。

(前年比 90.7%)

両更晒は一般企業向け封筒、官公庁向け封筒で動きがあり前年を上回った。

(前年比 102.1%)

色クラフトは官公庁向け、金融、保険関連向けの事務用封筒の出荷が回復傾向にあり前年を上回った。

(前年比 110.2%)

純白ロールは生花向けの動きが多少みられたが、回復基調であった菓子包装紙向けの動きなどは一段落してしまい前年を下回った。

(前年比 89.5%)

包装紙全体では113.0%と前年を上回った。

<板紙>

緊急事態宣言も解除されて、コートボールは土産物などにも動きが見られた。特板は食品テイクアウト需要が変わらず堅調であった。レトルト関係は低調だが、POPや医薬、化粧品関係は回復傾向であった。

出版向けチップボールは低調であったが全体では前年を上回った。

(前年比 109.4%)